

山上碑 (特別史跡)

681年に建立された国内最古の完存碑です。碑文には、放光寺の長利という名の僧が母のために石碑を建てたこと、長利の母方、父方両方の系譜が記されています。

長利の母の黒壳刀自は、ヤマト政権の直轄地である佐野三家（みやけ三屯倉）の管理者だった健守命の子孫。父の大尼臣は、赤城山南麓の豪族とみられる新川臣の子孫です。長利が務めていた放光寺は東国多数の大寺院だったこと

古代家族史の貴重な史料 完存する最古の碑

や、仏教が当時の先進的な思想であったことから、長利はかなりの知識人だったようです。また、山上碑の東隣にある円墳は黒壳刀自の墓とされています。

※刀自は女性の尊称。臣・足尼は男性の尊称。
※屯倉とはヤマト王権の支配制度の一つで、朝廷の直轄地。



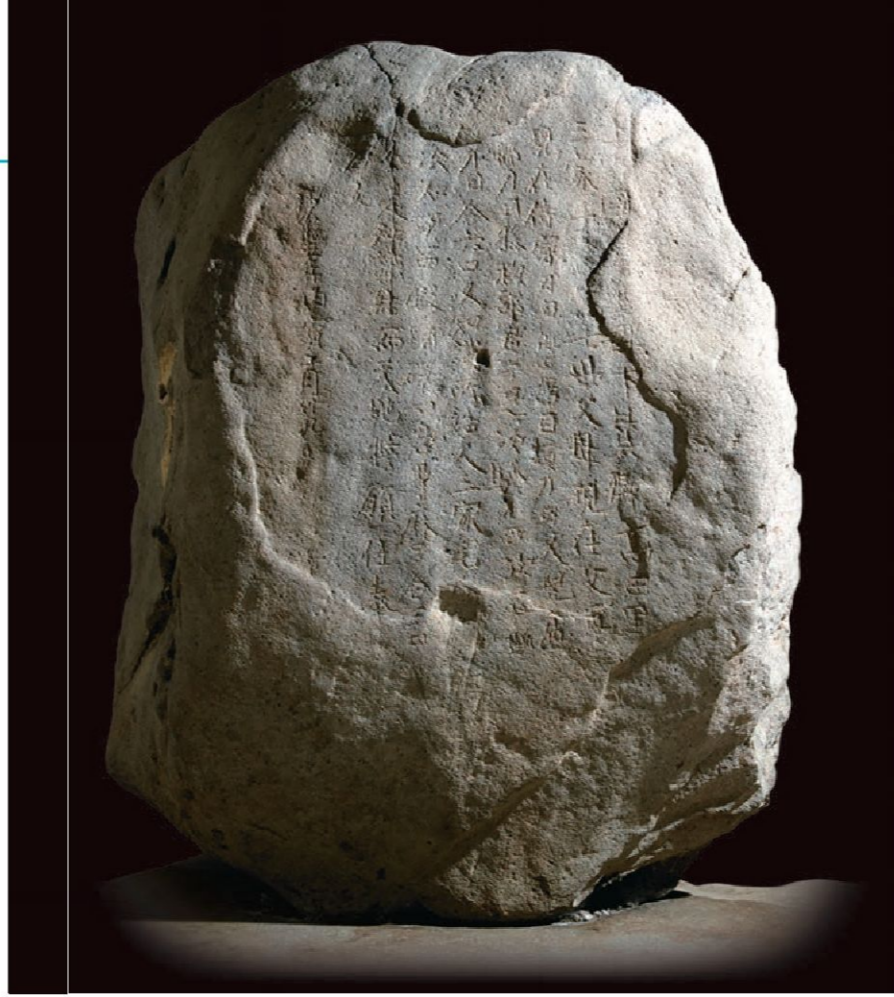
山上碑の覆屋と山上古墳

金井沢碑 (特別史跡)

金井沢碑は、奈良時代前半の726年に上野国群馬郡下賛郷高田里（現在の高崎市上佐野町・下佐野町周辺）に住んでいたと思われる三家氏を名乗る豪族が、同族と共に仏教の教えで結びつき、先祖の供養と一族の繁栄を祈って建てた石碑です。当時の行政制度である「国郡

古代の家族のありようや行政制度がうかがえる 仏教信仰にもとづく先祖供養の碑

郷里制」が整備されていたことや、碑文中に見られる9人のうち4人が女性である点から古代女性の社会的地位の高さが読み取れます。碑文の中の「群馬」の文字は県内最古の事例として、群馬県の名前のルーツを知る上で重要な史料です。



遊歩道と石段を登ったところにある金井沢碑の覆屋

高崎南八幡 時空さんぽ

681-2026

高崎市南部に位置する南八幡地区は、山名町・根小屋町・木部町・阿久津町の4町からなります。ここには、「金井沢碑」と「山上碑」の2つの古碑が現存し、850年の歴史を紡ぐ「山名八幡宮」が鎮座しています。1300年前の古代に通じる時空さんぽがおすすめです。



金井沢碑 建立 1300年

山岳部の谷間から流れ出た烏川と鑄川が合流する地域は、まさに関東平野の始まりの地。その地域の直径3km圏内に、飛鳥時代から奈良時代にかけて、山上碑（681年）・多胡碑（711年）・金井沢碑（726年）が建立されました。国内に18例しか残っていない古代の石碑の中でも最古の石碑群で、古代中国や朝鮮半島からの影響が色濃く、渡来系集団の定着や在地の豪族との交流がうかがえる貴重な史料です。

2017年には『上野三碑』として、ユネスコ「世界の記憶」に登録されました。中でも金井沢碑は今年、建立1300年というメモリアルイヤーを迎え、碑のある高崎・南八幡地区では『山上碑・金井沢碑を愛する会』を中心に地元をあげて盛り上げりをみせています。



山上碑・多胡碑・金井沢碑
ユネスコ「世界の記憶」登録8周年

古代のメッセー
刻まれた碑の里

『山上碑・金井沢碑を愛する会』

地元の宝の魅力を発信し、観光客を呼び込む

南八幡地区（山名町）には、金井沢碑と山上碑の2つの碑が現存しています。「学校の先生をはじめ大人たちからは、大変貴重なものだと言っていました。子どもにとっては単なる遊び場でした。」世界の記憶」登録に向けて意欲ある住民180名で組織された『山上碑・金井沢碑を愛する会』の皆さんは、子供時代を振り返り同じように話します。改めて勉強会などを重ね、地元の宝に対する歴史的認識や愛着を深めてきました。

「多胡碑は朝廷の命令が刻まれた『官報』ですが、山上碑は僧が母を供養するために建てたもの。また、金井沢碑は豪族が先祖の供養と一族の繁栄を祈って建てられました。多胡碑は記念館もありますが、2つの古碑は私的なもので『上毛かるた』にも取り上げられていません」と悔しい思いをにじませながら、わが町の宝を広くPRしようと、土日祝日に当番を決めて来場者の案内や御朱印の配布など独自の活動を続けています。



会の手づくり御朱印



なんばち縁起市

フードやワークショップ、ステージイベントなどお楽しみ満載。世代間交流や地域の魅力発信、ユネスコ世界の記憶「上野三碑」の振興などを目的にしたジモト凝縮開運マルシェ。4月～12月の偶数月に山名八幡宮の境内で開催されます。

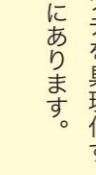


山名成張子

高崎だるまの技術で作られ、山名八幡宮の社紋や、子孫繁栄や豊作を祈ってお供えされる二股大根が絵付けされています。子宝や安産、厄除けに古くから親しまれています。

アートこうげつ

高崎市山名町1512
TEL 027-381-6233
営業時間: 10:00-18:00
定休日: 水曜日
※5～10月は水・日が定休日



一本殿・幣殿

本殿は、江戸時代中期に前橋藩主・酒井雅楽頭によって再建されました。本殿を飾る彫刻群は明和6(1769)年、彫刻物師の関口文治郎によるもの。高崎市の重要文化財。



裏神様

山名八幡宮の象徴である獅子頭は、古来より「疳の虫」「厄」を喰い切る神獣として伝わります。正面からお参りした後に裏神様をお参りすると、さらにご利益があるそう。



陰陽神木

樹齢300年以上。日本神話では伊邪那岐命と伊邪那美命が天之御柱(神木)を回り、沢山の御子神を授かったとされています。



山名一族ノ神馬

全国の山名氏の末裔が奉納したもの。神馬は西国を向いています。

安産と子育ての宮

山名八幡宮

平安時代末期に創建され850年の歴史を刻んできた安産と子育ての宮『山名八幡宮』。10年ほど前に安産と子育てを軸に構想したりニューアルに取り組みました。神社の本殿、神楽殿、授与所の「祈りの場」を刷新し、併せてキッズ・マタニティカフェや天然酵母のパン屋をオープン。さらに、子どもたちが自由に遊べる広場を作る『遊び場プロジェクト』を始動するなど、子育てしやすいコミュニティづくりを推進し、地域の人たちが集う「活動の場」を整えました。

今では放課後に境内で遊ぶ子どもたちの声が響き、春と秋の例大祭や隔月開催のマルシェが賑わうなど、地域の人たちの心と活動の拠りどころとなっています。

地域に開かれた「祈り」と「活動」の場

室町時代、後醍醐天皇の孫の君長親王が山名城に滞在の折、城主・世良田政義の娘との間に出来た子の安産を祈願し、無事産まれた男の子が良王君と名付けられ健やかに成長したことから、安産と子育ての神社として信仰されるようになりました。

年に2回、春は五穀豊穣を祈り、秋は収穫を祝う例大祭が行われます。安産と子育てのご祈願をはじめ、厄除け、交通安全、商売繁盛などのご祈禱。縁起物である成張子や鎌の入った虫切御守、しし頭の被り物などを求める人など、多くの参拝者が訪れます。

安産と子育ての神社

山名八幡宮は八幡太郎源義家の孫であり上野国新田荘を開いた新田義重の三男・義範によって創建されました。義範は山名郷に入り山名氏の祖となりました。源頼朝の御家人となって活躍し、その後足利尊氏に従い西日本に勢力を伸ばし、室町時代を支える有力な守護大名になっていきました。応仁の乱で西軍の指揮を執った山名宗全はこの山名氏の子孫で、山名八幡宮は全国にいる山名氏の総氏社でもあります。

安産と子育ての宮
山名八幡宮
高崎市山名町1510-1
TEL 027-346-1736

山名姓の総氏社

お子さまも楽しく過ごせる『mico cafe』

お子さま連れの方も、ゆったりとした時間を過ごしたい方も、気軽に立ち寄れるカフェ。手づくりこだわったやさしい味のお食事やスイーツを楽しめます。おもちゃや絵本も用意されており、小さなお子さま連れでも安心して過ごせる空間です。大きな窓からは上信電鉄の電車が見えることもあり、お子さまにも人気。子育てに関するイベントやワークショップなども随時開催しています。最近では御朱印巡りの途中に訪れる方も増えています。

営業時間/月～金 11:00-15:00(LO14:30) 定休日/土・日・祝日



天然酵母パン屋『PICCO LINO(ピッコリーノ)』

厳選した国産小麦とホシノ天然酵母に水とほんの少しのモンゴル産岩塩だけを使用し、素材本来の香りとうま味を引き出した体が喜ぶ天然パン。赤ちゃんから大人まで毎日安心して食べられるパンを通じて、日常的な交流が生まれています。境内のベンチに腰を下ろし、神聖な空気と木洩れ日を感じながら食すパンのおいしさは格別です。

営業時間/金・土・日・月 10:00-15:00 定休日/火・水・木



大人も楽しく参加して 地域で子どもたちを見守る



第4土曜日は子ども食堂の日



代表の堀越勝徳さん

「イタリアン食堂」、「駄菓子屋」、「放課後フリースペース」、月に1度の「子ども食堂」と様々な顔をもつ『こちら、学校前食堂』（通称「がまえ食堂」）。南八幡小学校の前にあり、子どもからお年寄りまで地域住民にとって居心地のいいリビングのような場所をめざしています。

昼はパスタを中心としたランチ営業ですが、午後になるとシニア世代のお母さんボランティアの手を借りながら駄菓子屋を運営。放課後の子どもの居場所にもなっていて、安心して思い思いに過ごすことができます。ボランティアとして関わる人たちはつらつとした姿も印象的です。



入口を入るとある「食事のなる木」。食事をご利用の際に「ありがとうチケット」（200円）を一緒に注文いただくと、子どもたちの食事の無料化につながります。葉っぱ型のチケットを木に貼って葉がたくさん茂ったら、利用した子どもたちがありがとうの花をたくさん咲かせます。

毎月第4土曜は子ども食堂を開催
子ども食堂が開催されるのは第4土曜日。高崎商科大学の学生ボランティアも加わり、2000〜2500個ほどの食事が用意され、高校生以下には無料（大人400円）で提供されます。運営費は、通常営業時にお客様に購入してもらう「ありがとうチケット」（200円）でまかなわれています。

運営母体は、地元で事業を営む仲間組織する『合同会社こちら学校前食堂』。代表を務める堀越勝徳さんは「安産子育ての宮山名八幡宮が鎮座するこの地域には、子どもたちの健全やかな成長への祈りが広がっているように思います」と笑顔をみせます。

また、堀越さんは山名八幡宮の敷

地内で10年間も続くマルシェ『なんばち縁起市』の主催者の一人であり、八幡様が地域に開かれているからこそ、人が集い楽しめる機会が多い」と感謝します。

地域の課題解決にみんなで挑む

養豚・加工品の製造販売を手がける『堀越ファーム』を経営する堀越さんは、野菜をおすそ分けしてくれる農家さんにお礼をしたいと、自家製ベーコンやソーセージなど加工品づくりを始めたのをきっかけに、地域に目を向けるようになり人脈が広がったそうです。各自が専門分野の知識や技術を発揮しながら協力し合い、地域の課題解決に取組んでいます。

『こちら、学校前食堂』（通称がまえ食堂）

高崎市山名町1567-1 TEL:027-388-8780

食堂の営業時間

金・土・日・月
11:30~14:00

※毎月第4土曜は子ども食堂
開催のため休み

駄菓子屋

金・土・日・月
11:30~17:00

放課後フリースペース

金・土・日・月
14:30~17:00